



2021年度冬のボーナス満額を勝ち取ろう！ シリーズ⑧

物価上昇が家計を直撃 会社は社員の努力に報いよ！

JR東海労は、コロナ渦が始まった2020年年末手当の交渉が開始となる前から、感染リスクを負いながら働く社員に対して、しっかり報いるべきだと一貫して要求してきました。しかし、会社は社員の努力を無視して、それ以降本額の期末手当を支給してきたのです。

振り返ればコロナ禍前の2019年は年間6.05ヶ月、2020年は5.15ヶ月の支給でした。2021年夏季手当は2.2ヶ月であり、年末手当も低額の支給となった場合、コロナ禍前と比べ大きく下がることとなります。私たちの生活への影響は多大ですが、そこに加えて物価上昇という状況も顕著になってきました。

一番目に入りやすいのはガソリンや灯油等の価格上昇です。ガソリンスタンドの価格表示はみるみる上がっていき、この影響もあり電気料金も上がっています。これから冬を迎え暖房を使用することが多くなりますが、家計に与えるダメージは大きいでしょう。また、食料品の値上げも目立ち始めています。身近な所では、牛丼チェーンの松屋では輸入牛肉の値上がりのため、牛丼で60～100円程度の値上げが実施されました。日本は食料自給率が低く、輸入に頼っているため、輸入国がコロナで影響を受け、工場等の操業が止まった場合に流通量が減り各国で取り合いとなり、その影響をもろに受けています。今後も物価上昇が懸念されています。

このような状況の中で、日々努力し安全・安定輸送を担っている社員の生活を支えるために、会社はこの年末手当を私たちの要求通り支給して、社員の努力に報いるべきではないでしょうか。